

網張ビジターセンター ニューズレター



Vol.59
2015.3



ついにご対面!

これでも隠れているつもり...

iwatesanrokunoikimonotachi iwatesanroku

* 岩手山麓の生き物たち *

iwatesanrokonomorinoikimonotachi iwatesanroku

念願の“ニホンモモンガ”との出会い

寒暖の差を少しずつ感じ始めた2月1日、行事を実施していた鞍掛山の東斜面で念願のモモンガに会うことができました。小雪がちらつき日中でも辺りは薄暗く行動しやすい条件だったのか、参加者から「何か飛んだ!」との声に、ミズナラ林の中の1本の木に全員が集中。遠目からはミズナラの灰色がかかった木肌に同化しているように見えたが、目を凝らすと木の幹をゆっくり登るモモンガの姿が確認できました。視線が気になるのか途中で何度も止まり、一同を見下ろしていましたが、突然フワッと数メートル先の木の根元へ静かに滑空。またゆっくり上へ登ってから下方へ滑空しそのまま見えなくなりました。どうやらその付近に巣穴があるのかもしれない。その付近はミズナラが主体の広葉樹林が広がり、太い木や針葉樹は見当たらなかったため広葉樹の冬芽が食糧となっていそうです。思いがけない出会いは充足感に満たされた時間となりました。

What is “nihonmomonga” ?

「滑空するリスの仲間」

リス科

頭胴長：14～20cm 前後

分布：本州～九州

夜行性だが山地では日中でも活動する。同じく滑空する仲間のムササビの半分程の大きさで、皮膜を広げるとハンカチ大になる。大きな尾っぽは滑空する時にバランスを取り、特徴的な大きな目は外敵から身を守るため横についている。

iwatesanrokunoikimonotachi iwatesanroku iwatesanrokunoikimonotachi iwatesanroku iwatesanrokunoikimonotachi iwatesanroku iwatesanrokunoikimonotachi

amihari
birds

アミハリ・バース vol.2

ゴジュウカラ

ゴジュウカラ科

全長：13.5cm

生態：留鳥

分布：北海道～九州

「ツツツトウィー」とか「フィーフィー・・・」という鳴き声を、雪かきしている時によく耳にしました。

木の幹を逆さに駆け降りる事ができる、すごい特技を持った鳥です。

木の幹をネズミのようにチョロチョロと移動し、昆虫を探して食べます。

冬は、カラ類の群れに混ざっている事もあります。



K. Hirano '15

網張ビジターセンター

三月の雪

昨年12月から降り積もった雪は今、ゆっくりと水に変わり、流れていく最中です。

とはいえ、高い所では人の背丈をゆうに超える根雪は、簡単には消えてくれそうにありません。

テラスデッキの、テーブルやイスが顔を出すのも、しばらく先になりそうです。



3月15日撮影

県境山脈の大パノラマ

テラスデッキからの眺め

展示コーナー紹介 終

網張ビジターセンターの展示コーナー紹介は今回が最終回。テラスデッキから見た県境山脈をはじめとする、大自然そのものの展示です。

雪のある間は利用できませんが、テラスデッキからは白銀に輝く県境の山々、春の桜と新緑、そして秋の



左から三角山、箕森山（間が千沼ヶ原）、平ヶ倉尾根、粹外に烏帽子岳



デッキ前のオオヤマザクラ

紅葉まで、季節を通して自然の絶景を楽しむ事ができます。

大きな木のテーブルと椅子で持参したお弁当を広げていただく事もできます。目の前の樹齢100年以上のオオヤマザクラのお花見、花吹雪の中でのランチタイムも網張ビジターセンターならではの楽しみ方です。



緑の中でお昼のひと時をどうぞ

佐和子先生の森と友達（最終回）

松木 佐和子

「ウダイカンバ」



8年前、盛岡に来て一番初めに行った調査は、岩手県内の林道を手当たり次第歩くことだった。岩手の山林の様子を知ることこそだが、私にとって林道を歩く一番の目的は、ウダイカンバ林を探ることだった。岩手に来る前、北海道ではカバノキ属樹木を対象とした研究をしていたが、岩手県にはどのような場所にどれくらいウダイカンバが生えているのか、ほとんど知識がなかった。唯一参考にしたのは「森の生態史」（古今書院）という書籍で、その一節には北上山地のシラカンバとウダイカンバの分布について書かれている。シラカンバの純林は、平庭高原や早坂高原など、有名な観光地にもなっているのが簡単に見つけられるが、ウダイカンバは、よっぽど樹木に興味がある人しかシラカンバと区別して見ていない。しかし、両種の性質や使われ方は全く異なる。シラカンバは寿命が100年足らずで、ほとんどが製紙用のパルプや割り箸などに使われる。一方ウダイカンバは200年以上の寿命を持ち、木目の美しさから化粧材や、フローリング、家具材にも使われる。

林道を走りながら樹木をながめると、様々な面白い事に気づかされる。例えば、それまではシラカンバしか見られなかったのに、林道が一本違うだけで突然ウダイカンバばかりの林相に変わったりする。後で調べてみると、以前、放牧地で頻りに攪乱されていたような場所にはシラカンバやダケカンバしか見られない。一方、ウダイカンバの純林が見られた場所は、その昔山火事があり、そのまま何も植えずに放置されていた場所だったりする。また北上山地にはカラマツ人工林が多く見られるが、しばしば植栽されたカラマツと同齢くらいと思われるウダイカンバが混在する。時には、カラマツよりもウダイカンバが優勢になっている林分もある。

北上山地でウダイカンバを探る過程で、様々な方に出会った。その中でも林業家Nさんとの出会いは印象深い。もう夕暮れを迎えようと言う時に道に迷ってたどり着いたのがNさんの家だった。後で知ったことだが、Nさんは岩手県林業界では知らない人はいないという有名な林業家だった。Nさんは樹木のことでなく、草花や動物、北上山地の自然のことなら何でも深い造詣があり、いくらお話を聞いても飽きることがない。あれから8年、私は今もウダイカンバの研究を続け、Nさんには毎年、学生実習の講師をお願いしている。私が初めて北上山地のウダイカンバ、そしてNさんに出会った時の感動を、これからも学生達に伝えていきたいと思っている。



* 筆者の佐和子先生は岩手大学農学部で学生たちに森林生態学を教えています。山スキーと歌をこよなく愛する彼女が森に関するエッセイを一年間にわたり綴ってくれました。

おかげさまで満10年目を迎えました・・・ 網張ビクターセンター開設ものがたり(最終回)

第六話・・・地域の資財をより「和えて」いくビクターセンターに・・・千村 勝哉（元網張ビクターセンター主任解説員）

この稿も今回で最終回となりました。筆者の網張ビクターセンター勤務は6年余ほどでしたが、過ぎれば「あっ」という間の一瞬の如くでした。当該地域は一体に四季の変化が実にめまぐるしく、この中でその関連の仕事などしていれば多忙を極めるからでもあります。私事で恐縮ながら驚かされたことは、隔月ほどに恒例だった風邪引きが当地に勤務しだしてからはピタッと止まってしまったことです。グリーンシャワー、この地の大気、定期的な山行、時々の温泉入浴、イベント従事の緊張感のいずれのせいなのか、あるいは、その全てのせいかもしれませんがとにかく体質が改革されたのです。一種の「国立公園効果」とでもいうべきかも知れませんが、4年ほど経た今でも効果持続中ですので人生中の一大時変となりました。

当館勤務中に特に感じましたことは、岩手山から秋田駒ヶ岳にかけて様々な自然観察会等を主催しましたが、その対象素材の多様さに圧倒されたことです。火山とその風景、火山現象、雪氷風景、コマクサなどの高山性植生、高層湿原、亜高山～山麓間森林、カモシカ、コウモリなどの哺乳類や野鳥、ヒメボタルなど昆虫類等の動物生息、渓谷、温泉、登山史跡、歴史街道、宮沢賢治の足跡や作品の源泉地等々、枚挙にいとまがないほどです。これらの言葉自体は普遍的なものです。中味はその土地、場所付けの特有な資財です。岩手山頂の風情の断トツな明るさやその遊歩空間の広大さにしても稀有、格別だと思いました。東京から帰郷した宮沢賢治が大正14（1925）年に、詩「国立公園候補地に関する意見」で岩手山や鞍掛山などを国立公園への運動方を逸早く呼びかけ、地域に国立公園への目覚めを促し還元した意味での特別な資財もあります。そしてそれらの資財の輝きを守り、追求し、伝え、表出し、していこうとする方々の力強さ、多彩さにも感銘を受けました。

国立公園発祥地のアメリカ合衆国から伝わった風景観賞の方法は、風景を科学的、客観的に解釈して感動したり楽しむことでした。しかし、日本にはもう一つ、「物に感ずること」を「もののあわれを知る」として短歌や俳句、詩などに主観的に表出して感動するという古来からの特有の手法があります。主観的と客観的の両アプローチによるならばより豊熟性のある風景観賞となるでしょう。この観賞手法は日本人のみが味わい得るものですがあまり一般化されているとはいえません。しかし、科学者でもあった宮沢賢治は既に、詩「小岩井農場」、「くらかけの雪」、「東岩手火山」などや、短歌「岩手山 いただきをふぶきこめたれば 谷は天へとつらなるごとし」など多くの詩歌の中でそれを表しています。岩手山や周辺にはその舞台場所もたくさんあります。このような伝統を取入れた国立公園の風景観賞の楽しみ方ももっと広がってほしいと思われたい。

一昨年12月に和食文化がユネスコ無形文化遺産に登録されました。おいしい和食となすには、素材、美しさ、栄養バランス、自然や季節感、もてなしの心等をいかに「和えて」かが求められます。ビクターセンターの活動においても、前述の豊潤なこの地特有の素材、資財をより有効、適切に「和えて」いくことで利用者に一層の感動や会心、輝きを提供するとともに、資財の大切さの理解のすすめ、生命観の高揚に資することが期待されます。このことで今は見えない「もの」も含めて心身に得られる様々な「もの」、あるいは、これらの蓄積から創出される写真や絵、詩歌等の「物」へなどといった言わば「国立公園効果」が広がり、人々の健康増進や生活文化の向上へさらに貢献されていくことを念じてやみません。* 筆者の千村氏は2004年から2011年まで主任解説員として網張ビクターセンターに勤務。現在埼玉県熊谷市在住。

環境省盛岡自然保護官事務所からの報告

みなさま、お世話になりました！

長かった冬も春の芽吹き季節へ変わろうとしているビジター・網張の森周辺ですが、私にとっては、みなさまとのお別れの季節ともなっていました。

外来植物の駆除・初めてのスノーシュー・岩手山の山開き等々、数え挙げたら切りが無いほど3年間で沢山の思い出をみなさんからいただきました。みなさんにとっては少し物足りない保護官でしたでしょうが、これからも経験値を上げ、誰からも頼られるような自然保護官になれるよう最後まで手を抜かず

にがんばります。
本当にお世話になりました。ありがとうございます。また、後任の自然保護官も温かく見守っていただけると幸いです。

(小笠原レンジャー)



自然観察会報告

1月25日(日)「鞍掛山麓アニマルトラッキング」

・冬晴れの鞍掛山麓は、濃紺の空と純白の雪原のコントラストで目が痛くなるほど。参加者数は定員を超える30名。森の生きもの達の息づかいを感じとりました。



2月21日(土)「相の沢～御味申坂スノーハイク」

・天候は晴れ、気温 -2℃
23名の参加。夏は絶対に入れないアカマツ、カマツ、モミ、ミズナとそれぞれに雰囲気の違い森の中を自由に歩く心地よさをしました。



*インフォメーションコーナー 詳しいお問い合わせは網張ビジターセンターまで

ホームページのアドレスが変わりました！

これまで利用していたプロバイダのホームページ掲載のサービス終了に伴い、ホームページのアドレスが下記の通り変更いたしました。

新HP アドレス ⇒ <http://amihari17.ec-net.jp>

「網張スキーゲレンデ春の宝もの探し」

4月29日(水) わたしだけの春みつけ

ビジターセンター集合 9:30~14:30

定員20名 屋食持参

参加費大人500円 小学生300円



●現在開催中の網張ビジターセンター企画展 ●3月1日から4月30日までビジターセンター展示コーナーにて

— 広野 孝男 山の絵展 —

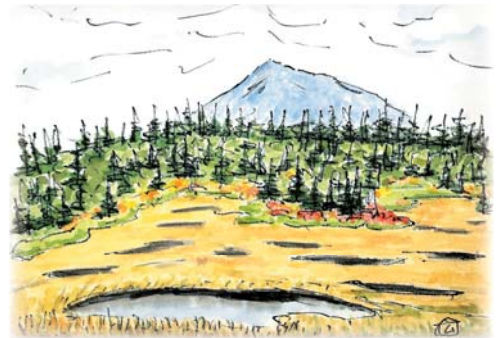
「全ての景色の場所に立つてながめたことがあり感動しました。ありがとうございました。今年も元気に登れそうです」・・・作品をご覧になった方の声より

「裏岩手の山々に感謝して」



かれこれ30数年、山のスケッチをしてきました。スケッチブックは100冊程になり、かけがえのないものとなっています。(中略)今回は、岩手山、裏岩手の山々のスケッチから気に入ったものを選び、F6サイズで描き直してみました。慣れないことで苦労しました・・

(ご本人のあいさつより)



モモンガのつづやき

桜前線が全国を北上中です！みなさんは、桜と聞いて何を思い浮かべますか？

宴席から団子にヒット曲、ワシントンなど実に様々でしょうね。私はタバコ屋の片隅にあるような、何気なく咲いている桜が好きです。ビジター

センター南側のオオヤマザクラは、昨年5月8日に花開きました。厳しい吹雪を耐えぬいて咲く風情、一見の価値ありです。(K.H)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 1月 1,158人 ◆ 2月 1,214人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 1月-7.3℃ ◆ 2月-6.0℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp> (アドレスが変わりました！)

E-mail: amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期(11月から3月末まで) 毎週火曜日休館 9時~17時